

淨瑠璃秘傳

石村檢校 竹の小田卷全部三卷
三味線傳來

目次

上の巻 口志賀の里檢校住家の段

八十三丁

切檢校兄弟出立の段

中の巻 道行浪の八重山

九十五丁

下の巻 口琉球國貝勒山の麓鰻取り秋香住家の段九十六丁

中葛紅葉深山の錦貝勒山半腹の段

切顔鴻基草蘆三味線秘曲傳授の段

十

淨瑠璃秘傳

淨瑠璃秘傳

淨瑠璃秘傳

山田鋤月居士著

第一章 淨瑠璃の小緣起

扱も此の淨瑠璃と云へる稱号の起りは何世紀に其嚆矢を顯したるや、昔しより、今に至る其久しき間年ををへ、世を経ると雖も、益其隆盛を隕さいるは、實に其業の世々人々の發明を重ね愈玄妙深遠にして、容易に其靈妙な微明の精極を究め難きに外ならず、されば其稱号は元より由來因縁世々流行に伴ひ變遷に連れて然るべき著書のある筈なれども、扱是れと云ふへき程の由々しき物も見受けねば如何なる時より起りたるかは詳かならず、併し粗ば取調る緒口を得たれば、本書續篇として後日出版する事とし、茲に其一二を書き記さん、柳亭が還魂紙料連歌師宗長の日記亭祿四年のくだりに、小座頭あるに淨瑠璃語らせたり云々といへる語あれば

淨瑠璃秘傳

淨瑠璃秘傳

小野小通を元祖とするは世紀に差違の甚しきに因つて誤れりとも物したり之れ子の愚按に恰適したれば萬々淨瑠璃の起りの隨分古き昔しにありべし尤此の縁起談は夫々各自見る處によつて相違あるべしと雖全體文字の上より考ふるも佛家の製造に近ければ萬一往昔布教宣布の方便に利用せんとて文章或は目下の如くならざるも命露に等しければ無常を悟らし専心念佛の觀念を注入せんとて種々社會の實相を淨瑠璃即ち早説教とし音曲を加味し樂器に托して救世の用具と代用せしかも計られず左すれば先づ其頃文事と掛けて美名高く才色類ひ稀れなる小通の逸早く之を理用し大體の主人公を淨瑠璃御前と命名し益々世俗に通ずる様拾貳段を編成し古きを興したるに相違なかるべしと考へ來たれば中興の開祖とするは差支なければ小通をして淨るり發明者とは少々許し難き所あり尤諸書に小通が事蹟の紛々として何れが正當なるか知り難けれど何しる琵琶を以て十二段を語らせたるに相違なし就ては予

淨瑠璃秘傳

淨瑠璃秘傳

が三味線傳來を取調べたる結果は下に竹の小田巻として淨るり様の文章にて盡したるが如く實に石村檢校と云へる冒險の盲人舎弟の平兵衛と共に琉球に渡航し習得したる物にて時代は正に文祿年間あれば信長繁昌時代に三味線の有る筈なき也左すれば淨るり大系圖に太閤の北の政所が命によつて泉州界の角澤檢校小通が十二段を更らに三絃に彈きならしたりと有るは蓋し后年其業の漸く熟達しむる後の事なるべしそれは叔元來開祖とする小野小通が傳は説く所各々異なり何れを可とし何れを否とする事も至難なりと雖も先づ第一着として予が管見を臚列せんに抑もく小通は水戸の城主竹田常陸の介の臣小野和泉守の女にして元と豊臣秀次と仕へ後に備前の太守池田輝政に奉仕せし鹽川志廣の守の後妻となりしと茲に於て喜三郎とお伏と二人の子を設くお伏は沼田の城主眞田信之の次男内記信政の妾となりて勘解由信就を生む此勘解由は長子なれども妾腹なれば本妻の子伊賀の守信澄次男もて家

淨瑠璃秘傳

十四
 督を繼ぎ信就は徳川の旗下となつて二千石を領す是れか通が爲には孫
 也とやそれはさてお通は博學秀才比類なく殊に容色嬌態勝れて絶倫
 なりしかば最初織田公信長に仕へ又豊臣の側室淀殿或は北の政所にも
 宮仕せしとぞ又後水尾帝の皇后東福門院に奉事せしとも云ふ左れば淨
 るり十二段は何れに奉仕せしとさの著作なるか明示し難けれども予か
 取調たる結果としては正に信長に勤仕せしときにて三河の國矢矧の長
 者の乙の姫淨るり御前源の御曹子牛若子に懸想の委細を姫は峯の薬師
 の告子なれば薬師の十二神將に象どり十二段に作述せしに相違なしと
 斷定したり殊にお通書を狩野光信の風を習得し豫て天神の象を畫く尤
 彩色に妙を極めたれど花鳥を畫きたる少しとや書はお家流の能書に
 して其頃女流の冠たりしや疑なし否疑なき而已ならず其文法の秀麗な
 る畫繪の妙絶今の世にも得難き堪能の才女也説の當否事の起因は措て
 問はず淨瑠理開祖と尊崇して萬々差支なしと予は有がたく信仰致候ぞ

かし、扱是より出鱈目に簡單に一括して略傳を連載せんに全体本章は別
 段の必用述はなきものあれど須らく淨瑠理を好む者豫め了知し置くべ
 き因縁あれば起章たるものに付き一く洩さずあまらずと云ふ譯に
 はあらず只名人中の名人を躍扱したる物なれば其積りにて、瀏覽あらま
 はしけれ

第二章 名人略傳

○角澤檢校 和泉國堺の津の盲人也、小通が淨瑠理長生殿十二段を三味
 線に彈初む是れ石村檢校琉球より習得したる蛇皮線を三味線として
 其弟子虎澤檢校山野檢校淺利檢校伊豆檢校岩崎檢校佐山檢校河村檢
 校市川檢校杯夫々相傳へて時々新曲を發明せる内角澤檢校嶄然一頭
 角をなして先づ第一着として小通が十二段に人の老少天象地形恰も
 活動して其物を見るが如く接するが如き感情を僅るに三箇の細絃に
 聲曲を配當せる事の發明中の最も業前の勝れし名人ありしや疑なし